

## 研究所彙報

### 一 二〇一二年度研究所・所員リスト

教授	浅野 富美枝	(家族社会学・ジェンダー論)
准教授	市野澤 潤平	(文化人類学)
教授	今林 直樹	(社会学・政治学)
教授	井上 研一郎	(近世美術史)
准教授	岩川 亮	(フランス語学・文学)
教授	菊池 勇夫	(日本近世史)
教授	九里 順子	(日本近代文学)
教授	松浦 光和	(心理学)
教授	森 雅彦	(西洋美術史)
教授	J. F. モリス	(日本文化論)
教授	大平 聡	(日本古代史)
教授	新免 貢	(宗教学)
准教授	杉井 信	(社会人類学)

教授	高田紀代志（科学史・科学論）
教授	田中一裕（生態学）
准教授	土屋純（地理学）
教授	豊澤弘伸（国語教育）
教授	八木祐子（文化人類学）
准教授	吉村典子（西洋建築デザイン史）
客員研究員	阿部隆（日本女子大学教授・人文地理学）
客員研究員	一条孝子（宮城学院女子大学非常勤講師・キャリアカウンセリング論）
客員研究員	今高義也（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本思想史）
客員研究員	犬飼公之（宮城学院女子大学名誉教授・古代文学）
客員研究員	大石泰夫（盛岡大学教授・日本古代文学）
客員研究員	大迫章史（仙台白百合女子大学講師・近代日本高等教育史・近代日本教育制度史・教育行政学）
客員研究員	後藤純子（元大阪市立大学文学部助教授・インド学・宗教学）
客員研究員	後藤久太郎（宮城学院女子大学名誉教授・建築史）
客員研究員	佐々木民夫（岩手県立大学教授・日本文学）
客員研究員	妹尾哲志（同志社大学政策学部講師・政治史）
客員研究員	高橋泉（仙台白百合大学教授・文化人類学）

客員 研究員	富永智津子（元宮城学院女子大学教授・東アフリカ・インド洋地域近現代史）
客員 研究員	中村忠生（兵庫県立西宮香風高等学校教諭・教育心理学）
客員 研究員	中根一貫（宮城学院女子大学非常勤講師・ヨーロッパ政治史（チェコ政治史）・比較政治学・東中欧地域研究）
客員 研究員	丸山仁（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本中世史）
客員 研究員	割田聖史（青山学院大学准教授・西洋史）

## 二 共同研究について

本年度の共同研究のテーマは次の通りである。

「南島における民族と宗教」

「多民族社会における宗教と文化」

「キリスト教文化の受容と変容」

「家族文化の総合的研究」

共同研究の成果として、次の冊子が刊行された。

『沖縄研究ノート』 22

『多民族社会における宗教と文化』 No. 16

三 二〇一二年度研究所活動報告

公開講演会

二〇一二年六月二七日（水）午後五時一〇分より午後六時三〇分（≪本学第二講義館三階K三〇一第二視聴覚教室≫）

「ジャステイス！」

公開研究会

二〇一二年四月一九日（木）午後五時一〇分より午後六時三〇分（≪本学人文館五階A五四九大会議室≫）

「女帝・皇后・近親婚——〈近親婚〉を中心に——」

報告者 大 平 聡（本学人間文化学科教授）

ワークショップとミニコンサート（本研究所協賛）

二〇一二年六月二日（土）午後二時より午後四時（≪本学学生センター小ホール≫）

「ガムランと舞踊——バリ島の風を感じて——」

主催 本学音楽科音楽学会

≪南島における民族と宗教≫

公開研究会

二〇一二年五月一日（金）午後五時一〇分より（≪本学人文館五階A五四九大会議室≫）

「奄美諸島編年史料集（近世編）編纂の試み」

報告者 石 上 英 一（人間文化機構理事・東京大学名誉教授）

二〇一二年二月八日（土）午後一時三〇分より午後五時（＝本学本館三階第二会議室）

「沖繩墓制研究と両墓制―柳田国男の両墓制をめぐって―」

報告者 加 藤 正 春（ノートルダム清心女子大学教授）

〈多民族社会における宗教と文化〉

公開研究会

二〇一二年二月二七日（土）午後二時一〇分より午後六時（＝本学講義館五階C五〇六教室）

「終わりになき〈移行〉の途上で？―ブルガリア農村におけるライフコースとジェンダーの再編―」

報告者 松 前 も ゆ る（盛岡大学文学部准教授）

「親密圏と公共圏の交点を生きる―ベトナム・ハノイの宗教コミュニティに集う女性たちの事例から―」

報告者 伊 藤 ま り 子（国立民族学博物館外来研究員）

共催 日本文化人類学会東北地区研究懇談会

二〇一三年一月七日（月）午後五時一〇分より（本学人文館五階A五四九大会議室）

「一九世紀モンゴル宣教と聖書翻訳をとりまく歴史諸条件」

報告者 滝 澤 克 彦（本学非常勤講師、東北大学研究員）

四 所員消息（二〇一二年三月―二〇一二年二月）

浅野 富美枝 教授

著書 『女たちが動く―東日本大震災と男女共同参画視点の支援』（生活思想社、二〇一二年五月）

その他「二〇一一年労働年表 社会文化欄」 政法大学 大原社会問題研究所編『日本労働年鑑二〇一二年版』

（旬報社、二〇一二年八月）所収

「宮城の震災支援活動と女性」（「ふえみん」二〇一二年一月一五日号）

「日本大震災と男女平等参画」（東京都文京区『パートナー』四六号二〇一二年

二月）

講演「東日本大震災と女性」（国際女性デーin函館 二〇一二年三月八日）

講演「東日本大震災における女性のニーズ調査」（イコールネット仙台「東日本大震災における女性のニーズ調

査報告会」二〇一二年九月二三日）

講演「東日本大震災と女性への情報支援」（全国女性会館協議会 二〇一二年九月二八日）

他

その他 日本女性会議二〇一二仙台第二分科会「困難すごろく」でみる女子の生きづらさ」コーディネーター

市野澤 潤 平 准教授

学会発表「マストリーリズムと『エコツーリズム』：タイ南部プーケット島のダイビング観光業における「環境保

護」意識」日本文化人類学会第四六回研究大会（二〇一二年六月二三日、広島大学）

海外調査「タイにおけるダイビング観光に関わる現地調査」(タイ、二〇一二年四月二六日～五月六日)

海外調査「総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上」プロジェクトに関わる現地調査および二〇一三年度タイ実習に関わる予備調査」(マレーシア／タイ、二〇一二年八月五日～二三日)

海外調査「タイにおけるダイビング観光に関わる現地調査」(タイ、二〇一二年九月五日～一九日)

海外調査「タイにおけるダイビング観光に関わる現地調査」(タイ、二〇一二年一〇月三〇日～十一月七日)

今 林 直 樹 教授

論文「長期独裁政権の終焉と民族紛争——コートディヴォワールを事例に——」(月村太郎編、『地域紛争の構図』、晃洋書房、二〇一三年、所収)。

研究ノート「アンヌ・ド・ブルターニュの記憶とロワールの古城」(『人文社会科学論叢』第22号、二〇一三年) 報告「第五回世界のウチナンチュ大会に参加して」(二〇一三年一月三一日 於 宮城学院女子大学)

井 上 研一郎 教授

研究ノート「追憶の巨椋池——茶山と波響」(広島県立歴史博物館研究紀要 第十四号・二〇一二年三月)

調査報告「各ジャンルの動向——日本画」(『宮城県芸術年鑑』第四十一巻・平成二三年度) 二〇一二年四月 宮城

県環境生活部消費生活・文化課)

調査 佐賀県立美術館・博物館、佐賀城本丸御殿、佐賀市立歴史民俗館(旧古賀家、旧牛島家、旧久富家、旧福田家ほか)・二〇一二年五月一日～三日「九州地方における伝統的建造物および伝統工芸の保存活用に関する

る現地調査」

調査 岩手県立美術館（盛岡市）・二〇一二年一〇月六日「彫刻家・舟越保武作品に関する調査」

調査 リアスアーク美術館（気仙沼市）・二〇一二年一〇月七日「東日本大震災後の博物館活動に関する現地調査」

調査 えさし藤原の郷（奥州市）、萬鉄五郎記念美術館（花巻市）・二〇一二年二月二日「再現建造物の展示に関する現地調査およびプロレタリア美術運動に関する作品調査」

調査 北海道上川郡美瑛町・拓真館、北海道空知郡上富良野町・後藤純男美術館・二〇一二年一月三日「北海道内の写真および日本画専門美術館の活動に関する現地調査」

調査 高知県立美術館（高知市）・二〇一二年二月九日～一〇日「近世末期の浮世絵師・絵金に関する作品調査」

座談会 「あの時から再開まで」二〇一二年二月二日・共生福祉会福島美術館（仙台市）

美術館支援活動 二〇一一年四月～二〇一二年二月・共生福祉会福島美術館の再開に向けた作品保全作業、募金活動支援、学内での展覧会「福島美術館の華（たからもの）」（二〇一二年一〇月一三日～一九日）開催など。

菊池 勇 夫 教授

著書『東北から考える近世史―環境・災害・食料、そして東北史像―』（清文堂出版、二〇一二年六月）。

共編著『講座東北の歴史』第四巻〈交流と環境〉（清文堂出版、二〇一二年九月） ※「救荒食と山野利用―仙



台藩の場合」執筆。斎藤善之氏との共編。

論文「南部屋（浅間）嘉右衛門と飛騨屋―蝦夷地の利権をめぐる争い」（『環オホーシツクの環境と歴史』創刊号、サッポロ堂書店、二〇一二年三月）。

講演記録「非常・非命の歴史学―近世東北の災害・飢饉史」（『歴史』一一八輯、二〇一二年四月）

講演記録「幕末の箱館と盛岡藩―箱館警衛を中心に―」（『はこだて外国人居留地研究会会報』第七号、はこだて外国人居留地研究会、二〇一二年一〇月）。

書評と紹介・川上淳著『近世後期の奥蝦夷地史と日露関係』（『日本歴史』七七一号、吉川弘文館、二〇一二年八月）。

書評・三浦忠司著『八戸藩『遠山家日記』の時代』（『東奥日報』二〇一二年九月二五号）。

辞典項目「寛永の大飢饉」「天明の大飢饉」「天保の大飢饉」（北原系子他編『日本歴史災害事典』吉川弘文館、二〇一二年六月）。

報告「松浦武四郎『蝦夷日誌』にみる松前・蝦夷地の沿海社会」（『アジア沿海科研』研究集会、会場法政大学ボワソナードタワー、二〇一二年四月二八日）。

報告「飢人救済をめぐる公権力と地域社会―天保飢饉下の八戸藩」（歴史科学協議会、会場早稲田大学戸山キャンパス、二〇一二年十一月一七日）。※『歴史評論』七五一号（歴史科学協議会、二〇一二年十一月、問題提起）。

講演「郷土意識と名所・歌枕―野田の玉川をめぐる―」（塩竈市高齢者大学『千賀の浦代大学』、会場ふれあいエ

スプ塩竈、二〇一二年五月一八日）。

講演「日本近世史の災害と復旧・復興」（学都仙台コンソーシアム・復興大学、会場アエル、二〇一二年六月二日・九日）。

講演「米と雑穀―昌益の穀物観との関わりで」（安藤昌益と千住宿を調べる会、会場東京芸術センター、二〇一二年一〇月五日）。

講演「昌益の思想をどのように読むか―飢饉と貨幣経済のなかで」（安藤昌益資料館、会場八戸市十六日町天聖寺ホール、二〇一二年一〇月一三日）。

講演「菅江真澄『はしわの若葉』を読む―花見・時鳥・早乙女花など―」（一関市大東支所教育文化課・文化財ボランティア養成講座、渋民公民館、二〇一二年一月九日）

講演「近世東北の飢饉―仙台藩を中心に」（飯田アカデミア第67講座、飯田市歴史研究所、会場飯田市民館、二〇一二年一二月一五日）。

講義「近世東北の災害・飢饉史―人々は災害にどう向き合ってきたか―」（復興大学公開講座、TKP仙台ガーデンシティ仙台・アエル21階、二〇一三年二月一六日）

九里 順子 教授

論文「眼が狩る、眼を狩る―齋藤玄論」（『里』一〇七号 二〇一二年二月）

論文「口語自由詩であること―室生犀星晩年の世界―」（『日本文学ノート』四七号、二〇一二年七月）

書評 宮沢春花『熊子のラッパ』 邑書林 二〇一二年刊（『里』一〇九号 二〇一二年七月）

松浦光和 教授

Basic Encounter Group の「個人過程」に関する実証的研究 宮城学院女子大学研究論文集一一四号 三五—四七

Basic Encounter Group 参加者の所感の分類 宮城学院女子大学研究論文集一一四号 九—二四

大平 聡 教授

論文「女帝・皇后・近親婚」鈴木靖民編『日本古代の王権と東アジア』吉川弘文館 二〇一二年三月一〇日  
評論「大震災と資料の廃棄」『宮城歴史科学研究』七二号 二〇一二年九月二七日

講演等「学校資料からみる地域の歴史」二〇一二年七月二日 気仙沼市教育研究会歴史部会研修会 気仙沼市立

松岩小学校

「小学校の史料からみる地域の歴史」二〇一二年一〇月二七日 宮城歴史科学研究会例会 東北学院大学土

樋キャンパス

「学校資料の保存」二〇一三年三月一七日 いわて高等教育コンソーシアム 大学等における地域復興のための  
センター的機能整備事業シンポジウム「東日本大震災の備えへの提言」ホテルルイズ

調査 登米市登米町教育資料館資料整理

四月八日・二〇日・五月一日・一八日・二五日・六月八日・一五日・一七日・二九日・七月六日・一六日

山元町

中浜小学校校歌資料返却 四月一三日

坂元中学校資料保全作業 六月一日

坂元小学校資料調査・保全作業 七月二七日・三十一日・八月七日

仙台市博物館

四月二七日 仙台市立生出小学校日誌調査

柴田町

船岡小学校資料調査 六月一二日・二二日・七月一八日

槻木小学校・柴田小学校資料所在確認調査 六月二六日

しばたの郷土館所蔵槻木小学校葉坂分教場資料調査 七月二〇日

気仙沼市

松岩小学校資料調査 七月二日

気仙沼小学校資料保管庫整理・調査 七月三日・二〇一三年一月一七日・一八日・二九日・二月一五日

角田市

藤尾小学校資料調査 七月一三日・九月一日・一二日・二二日

栗原市

栗原市立鶯沢小学校資料調査 一〇月五日

女川町

女川町教育委員会 一〇月一九日（資料保全打診）・十一月九日（資料整理打合）・十二月二日（成果提出）

女川第一中学校資料整理 十一月九日・三〇日

第一小学校資料整理・調査 十一月六日・十二月四日

第二小学校資料整理・調査 十一月六日・十二月四日

第四小学校資料整理・調査 十一月六日・十二月四日

#### 南三陸町

名足小学校資料調査・保全作業 十一月九日・二〇一三年二月六日・二七日

#### 石巻市

大原小学校資料所在調査 二〇一三年一月一日

荻浜中学校資料整理・調査 二〇一三年二月一三日・二一日

#### 社会的活動

岩手県金ヶ崎町鳥海柵発掘調査指導委員会副委員長 二〇一二年七月～

多賀城市文化財保護委員 二〇一二年一月～

東北歴史博物館協議会委員 二〇一二年九月一日～

#### 新免 貢 教授

論文「使徒信条成立に至るまでの復活理解の軌跡の諸相」（本学『キリスト教文化研究所研究年報四五号』二〇

一三年三月一日)

『三・一一とキリスト者または宗教者』『季論二一(一九号)』、『季論二一』編集委員会発行、本の泉社、二〇一三年一月二〇日、三〇一四一頁)

著書(共著)新免貢・菅澤邦明『世界の終りの為の備忘録』(三分冊、兵庫県南部大地震ボランティアセンター発行、二〇一二年四月二八日、同七月一七日)

エッセイ「震災の風化に抗って——多様な『いのち』の再生を目指す経済への転換を!」(『兵庫教区被災者生活支援長田センターニュース一五号』、日本基督教団兵庫教区、二〇一二年一月一七日、三一五頁)

「出会い・本・人——たどり着いたら、『取り残された場所』」(『本のひろば』二〇一二年一〇月、財団法人キリスト教文書センター発行、一頁)

巻頭言「世界の基本を洞察する意思」『京都ユダヤ思想』(第三号、二〇一二年二月二六日、一—四頁)

「新約聖書外典への招き」『ソア』(四〇号、日本聖書協会、二〇一三年三月、八—九頁)

講演記録「安心して暮らせる社会の構築を目指して——東日本大震災と阪神・淡路大震災の両方を体験した者として」(『北星学園大学スミス・ミッシェン週間記録——震災被害者との連帯』、北星学園大学・同短期大学部スミス・ミッシェンセンター、二〇一二年三月三十一日、三一—二〇頁)

「共感と共苦の連帯に生かされる」(『日本基督教団兵庫教区震災ニュース三二号』、阪神・淡路大震災対策特別委員会発行、二〇一二年四月、二—十一頁)

「三段權船の最下段の労苦——『ルカによる福音書』序文(一章一—四節)をめぐる——」(『宮城学院キ

リスト教講座集二〇一二——キリスト教と現代——『、二〇一三年三月』

研究発表「審判頌栄における自然と人間——『ヨハネの黙示録』一六章五—六節をてがかりとして——」（第四

六回日本基督教教会東北支部学術大会、白百合女子大学、二〇一二年六月二日）

「宗教者側の実践活動から見えてくる東日本大震災後の宗教学的課題」（第七一回日本宗教学会学術大会パネ  
ル発表代表、皇學館大学、二〇一二年九月九日）

講演「共感と共苦の連帯に生きる——二つの大震災の体験から——」（平成二四年度都道府県宗教法人事務担当  
者研修会、パレス宮城野、二〇一二年八月九日）

『『死』を考える——「殉教」——』（神戸新聞カルチャーセンター講座『『死』を考える——人生をかけたがえの  
ないものにするために』、二〇一二年八月二七日、神戸三宮KCC会館）

「マグダラのマリア」（神戸新聞カルチャーセンター講座『『聖書』の中の女性たち』、二〇一二年八月二七日、  
神戸三宮KCC会館）

「外典文書の位置づけと初期キリスト教の思想的多様性」「シリアの美しいアブガル伝説「聖画の源流」「外  
典版『姦淫の女』——リアルなイエス像が刻み込まれた『ヘブライ人福音書』——」「性差を超える人間理解——  
リーダーシップの資質を問う『マリヤ福音書』——」「恐るべき神童イエスと絶対純潔のマリアの生い立ち——  
『トマスによるイエスの幼時物語』と『ヤコブ原福音書』——」「キリストの黄泉下り——罪のない楽しい大衆文  
学『ニコデモ福音書』——」「『もう黙ってられない』と自然界からの復讐——『パウロの黙示録』——」「『イエスが笑  
う』——貶められた弟子を復権させた『ユダ福音書』——」「霊的復活の深み——現代人の理性に訴える『復活に

関する教え』——『過ぎ去り行く者であれ』——時空を超えた生き方を説く『トマス福音書』——（計一〇回、第五八回「聖書セミナー」「聖書と外典・偽典」、神戸バイブルハウス、二〇一二年八月二八―三〇日）

「未来の世代との連帯を作っていくことを基礎づける倫理の構築に向けて」（公開徹底討論「原子力事故という災禍、破局を人間はいかに生き延びるのか」、日本基督教団西宮公会教会、二〇一二年八月三一日）

「ジャスティス」（二〇一二年度全国学生YMCA夏期ゼミナール、東山荘、静岡県御殿場市、二〇一二年九月一六日）

「格差を押し返す未来志向」義人はその真実によって生きる」（第一六回学生YMCA日韓交流プログラム聖書研究、在日本韓国YMCA、二〇一三年一月一三日）

「これからの世界に立ち向かうために——伝統の刷新——」（二〇一三年三月一〇日、日本基督教団姫路教会）

東日本大震災関連実地調査・ヒアリング

石巻市渡波地区（二〇一二年三月二〇日）

南相馬市小池第一応急仮設住宅仮設住宅（二〇一二年三月二三日、二〇一三年一月一二日）

宮城県庁・仙台市役所ヒアリング（二〇一二年三月二四日）

あすと長町仮設住宅（二〇一二年三月三一日他、計十一回）

集団疎開仮処分申請支援集会ヒアリング（計二回、二〇一二年八月三〇日、日本基督教団西宮公会教会。二〇一二年十一月二六日、日本基督教団東北教区センター）

日本銀行仙台支店における震災後東北経済動向に関するヒアリング（二〇一二年一〇月五日）



石巻立町復興ふれあい商店街（二〇一二年二月二八日）

原発事故後の放射線量に関する資料収集（二〇一三年一月一三日、CRMSせたがや・市民放射能測定所）

#### 国内文献資料調査

「米軍基地と沖縄女性」をめぐる諸問題に関する資料収集（二〇一二年七月一三―一六日、沖縄キリスト教学院大学、辺野古地区など）

諸宗教団体による震災支援活動に関する資料収集（二〇一二年八月二七日、兵庫県西宮市西福寺）

立教大学図書館（池袋キャンパス）にてイエスの言葉資料に関する研究動向調査（二〇一三年二月一日）

大学カルト対策に関する実態調査と資料収集（全国霊感商法対策弁護士連絡会主催特別セッション「大学でのカルト対策の現状と課題」、二〇一三年三月一五日）

杉井 信 准教授

書評「東賢太郎著『リアリティと他者性の人類学…現代フィリピン地方都市における呪術のフィールドから』三  
元社、二〇一一年」『年報人類学研究』三号、二〇一三年三月刊行予定）

海外調査 フィリピン北部の日系人および山地少数民族に対する学校教育についての聞き取り調査、三月一五日  
～二六日

田中 一裕 教授

論文「The cabbage moth modulates the adult eclosion time in response to the amplitude of temperature cycle」  
(Biological Rhythm Research, Tanaka, Kimura & Watari, 二〇一三年二月)

講演「極限環境に生きる（生きるための死生学）」宮城学院女子大学（二〇一二年九月二九日）

講演「家の周りを観察しよう―蜘蛛の世界―」東松島市コミュニティセンター（二〇一二年十一月七日）

学会報告「脂質からみたヨトウガの夏休眠と冬休眠」日本応用動物昆虫学会、近畿大学（二〇一二年三月二八日）

学会報告「ウヅキコモリグモの日周期活動リズム」日本昆虫学会東北支部会、八幡平ハイッ（二〇一二年八月四日）

学会報告「アライトコモリグモの歩行活動の日周期リズム」日本蜘蛛学会、霞城セントラル（二〇一二年八月二五日）

学会報告「温度較差がカイコの羽化リズムにおよぼす影響」日本昆虫学会、玉川大学（二〇一二年九月一六日）

学会報告「タマネギバエの歩行活動―自然条件下での低温の効果」日本昆虫学会、玉川大学（二〇一二年九月一六日）

豊澤 弘 伸 教授

論文「ブックトックにおける不易と流行」（『月刊国語教育研究』四五七号、日本国語教育学会、二〇一〇年五月）

論文「国語科における「活用」の役割」（『月刊国語教育研究』四八〇号、日本国語教育学会、二〇一二年四月）

八木 祐子 教授

研究ノート「チャマールヘウツタル・プラデーシユ州」村の産婆さん』『カーストから現代インドを知るための30章』金基淑（編）明石書店、六二〇六八頁、二〇一二年八月

「ナリーーヘウツタル・プラデーシユ州」村落のメデイエーター』『カーストから現代インドを知るための30

章』金基淑（編）明石書店、六九～七五頁、二〇一二年八月

「ヤーダブ・ヘウ・タタル・プラデーシユ州」躍進する中間カースト」『カーストから現代インドを知るための30章』金基淑（編）明石書店、一〇四～一一〇頁、二〇一二年八月

「5. 2 インド北部」『朝倉世界地理講座 4巻 南アジア』朝倉書店、十一～二十三頁、二〇一二年六月  
コラム「マヤヴァテイ」『カーストから現代インドを知るための30章』金基淑（編）明石書店、二二一～二二三  
ページ、二〇一二年八月

研究会発表「ジェンダー・ハンドブック―儀礼と信仰」現代インドプログラム『現代インドにおける文学・社会運動・ジェンダー』、東京外大サテライト、二〇一二年十一月八日

海外調査 北インド、ウツタル・プラデーシユ州ヴァラナシ 二〇一二年八月二六日～二〇一二年九月十七日  
北インドにおける儀礼の変容に関する文化人類学的調査

吉村典子 教授

論文 Noriko Yoshimura, “The Identity and Design of the Modern British Home under the Influence of the ‘Feminine Territory’ and Japanese Art,” *Design Frontiers: Territories, Concepts, Technologies*, Blucher Ltd., 2012.

出版 吉村典子『ミントンのタイル』INAX ライブミュージアム、二〇一二年四月

編集『デザイン理論』六〇号 意匠学会、二〇一二年九月

学会口頭発表等 吉村典子「芸術と地域——英国都市再生の事例から」藝術学関連学会連合第七回公開シンポジ

ウム「地・人・芸術——〈芸術と地域〉を問う」(仙台市博物館、二〇一二年六月)

Noriko Yoshimura, “The Identity and Design of the Modern British Home under the Influence of the ‘Feminine Territory’ and Japanese Art” (ICDHS 2012 | 8th Conference of the International Committee for Design History & Design Studies, São Paulo, Brazil, September 2012)

講演 吉村典子「ミントンのタイルと一九世紀の〈新しい〉暮らし」(世界のタイル博物館、二〇一二年四月)  
展覧会企画実行「ミントンのタイル——千変万化の彩り——」(世界のタイル博物館・常滑・二〇一二年、渋谷ヒカリエ・東京・二〇一三年)